

第6回検討会における主な意見

少子化の現状と展望、基本的な考え方

○大綱の中に、少子化社会対策の問題は単騎で成り立っているわけではなく、いろいろな政策の要になっていて、いろいろな形で波及していているのだという姿をしっかりと書き込んでおくことが大事ではないか。国全体の政策における位置付けをしっかりと書き込んでおくと、政策同士のブリッジも図りやすくなるのではないか。

ライフステージの各段階に応じた支援

(結婚)

- 思春期におけるライフプラン教育の推進や若年層のライフデザイン形成の促進、結婚に対するポジティブキャンペーンなど、国全体としての取組が必要。
- 戦後間もなくはお見合いが残っており、その後は職縁があった。職場での出会いがなくなり、何となく自然に結婚できたという状況がなくなったため、自分から積極的に出会う機会を探すことが必要になった。
- 多様な出会いの機会の創出、きめ細やかな支援・スキルアップ等が必要であり、結婚支援を総合的にワンストップで相談できる場所が非常に有用。
- 各都道府県の実情に応じた取組を行っており、財政的バックアップに加え、ネットワーク化、人材育成などの点において、国ならではの後押しをお願いしたい。
- 男女の出会いを作る事業に加えて、若い男女が、消防団など、住民参加の行事に参加できることも重要。

(子育て)

- 子供の育ちは非常に重要。
- 子供が自己肯定感を持って育つことが、将来の結婚にもつながるのではないか。
- 結婚、子育てに対して前向きなイメージが持てるような環境整備等が重要であって、子育て現役世代をしっかりと支えることが非常に大切。子育て支援の重要性を、柱にもう一つ打ち出していただくことも必要。

- 少子化への危機意識に関する記述が弱いのではないか。また、時系列的に現在の話と、すぐ近くの話と、50年後ぐらいの日本全体の姿の話と、よく区別して書いておくことも大事ではないか。
- 既存の人口増の頭打ち、人口減少が今後も続いていくということに加えて、日本の場合は独特の人口構造によって、超高齢化も同時に来る。二重の波がやってきて、2000年代半ばぐらいに非常に厳しいことになるということは、しっかり書き込んでおかないと、危機感というものが十分には伝わり切らない。
- 他方で、今なら変えられるというポジティブなメッセージというものを十分に入れておくことも大事である。
- 子育てがあれば子育てがあり、子供にとってのワンストップセンターが必要。「子育て」という点で子供中心にして考えれば、各課、各省庁の縦割りをなくして、無駄がなくなっていくのではないか。
- 税制の面からの支援についても書き込んでいただきたい。具体的には、子育て支援への配慮であり、例えば今、夫婦ともに産み育てるという状況があるため、その世帯に対する税制の配慮や、これから若い人で家族を持とうと考えている人たちへの税制的な観点からの配慮も盛り込めないだろうか。

社会・地域・企業における取組

(企業の取組)

- マタニティハラスメントは、働く女性が妊娠・出産を理由として解雇・雇い止めをされることや、妊娠・出産に当たって職場で受ける精神的・肉体的なハラスメントで、「セクハラ」「パワハラ」に並ぶ3大ハラスメントの1つとされている。これが意識的、または無意識的に行われていることによって、女性の働くことや産むことの両方のモチベーションが下がっていく。
- マタニティハラスメントは、女性の活躍推進の点でも少子化対策の点でも非常に問題。政府が主導して厳しく当たっていただきたい。国としては、事例を記載したわかりやすいガイドラインなどを作成していただくとともに、相談窓口の機能強化をお願いしたい。

(男性の意識・行動)

- 男性も楽になる、男性も自分らしい生き方ができ、自分らしくいられて、

豊かな人生を送れるのだというポジティブなアプローチが必要。男性もやれということではなく、男女ともに豊かな人生のために、あるいは家庭や社会、地域参加ができるようにというポジティブな文言を入れられないか。

- 男性は今でもいっぱいいっぱい、その上家事、育児に参画すると、とても負担がかかるようなイメージを持っている。ここは「特に男性に向けて」というよりは「特に企業に向けて」にしてはどうか。男性は恐らく組織が柔軟な対応であれば、家族や地域に参加したいと思っているのではないか。
- 男性の意識、行動の部分とも共通するが、男性側のメリット、男性も豊かな人生、家族、地域とのネットワークができるなど、女性の活躍のために男性がもうちょっと身を削れというよりは、男性の豊かな人生のためになど、男性のメリットを入れたらよいのではないか。

(ワーク・ライフ・バランス)

- ワーク・ライフ・バランス、両立ができる企業を評価する方が多くおり、こうした取組が良質な労働力の確保につながることを、データなども示していくと、一歩二歩進むのではないか。
- 長時間労働の抑制については、男性のところにも女性の働き方のところにも、もう少し厳しく入れていただけると非常にありがたい。
- 男性の育児休業取得とか、例えば何かみんなが合い言葉にできるような数値があって、逆にしっかり規制してもらったほうが男性の働き方改革は推進するのではないか。

少子化対策のその先に向けて

(目標)

- 希望をかなえることが大事ということは確かにそのとおりだが、この問題については単に希望がかなえばいいという生やさしい問題ではないのではないか。2060年に出生率1.6になっても、1.3人で1人を支えないといけない時代になり、1.8でも1.4人で1人支えないといけない。極めて厳しい時代が到来する。希望自体を上げていく努力も視野に入れざるを得ないのではないか。

(国民の理解)

- 少子化の危機意識について、社会全体に与える影響を説明することも重要である。加えて、個々の方々にも少子化問題を理解していただくような取組も大変大事だろう。

○大綱を読む方、国民の皆様本当に胸に響く形で受けとめていただけたことが重要。そのためにも、少子化対策というものは、結婚・出産、子育ては人々の選択の自由と決定を尊重することを基本とし、その上で希望がかなえられる環境整備は国、社会の責務である。この点を明記すべき。